

4. 調査の成果（中間報告）

本年度は、「継世門北地区」における遺構確認を目的とした発掘調査を実施しました。これらの成果は今後詳細な資料整理作業によりまとめられますが、ここでは中間報告として、現時点で判明している成果を代表的な遺構ごとに報告します。

土留め石積み

美福門城壁及び礎道（とうどう）の下層から検出された遺構で、粗く加工された大型の石材を用いています。調査区一帯が北から南へ傾斜する場所にあるため、この石積みは美福門城壁を構築する前の基礎工事で積み上げられたものと考えられます。年代は出土遺物から15世紀前半～中葉に位置づけられます。



土留め石積み検出状況（西から）

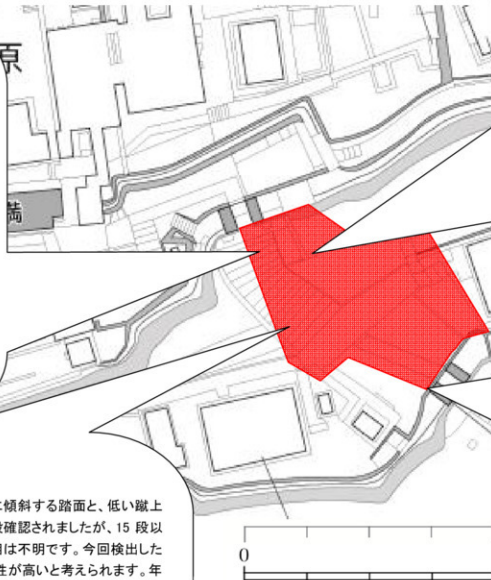
美福門前の礎道（階段）

美福門から南に延びるスロープ状の石階段で、幅が広く緩やかに傾斜する路面と、低い蹴上げという独特の形態を持っています。美福門の基壇から数えて14段確認されましたが、15段以降は戦後の造成により破壊されているため、残念ながら全体の様相は不明です。今回検出したのは礎道の東側部分で、西側部分は道路の下に埋まっている可能性が高いと考えられます。年代は隣接する石積み直下の出土遺物から、15世紀前半～中葉に位置づけられます。



美福門前礎道検出状況（南西から）

第2図
継世門北地区拡大図

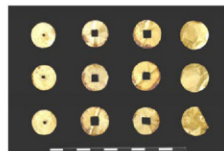


拝所遺構

直径3～4m、高さ約2mの巨岩を石積みで囲んだ遺構で、城内十楯のひとつ「赤田御門の御楯」と考えられます。この巨岩上面にある2ヶ所のくぼみから、県内でも類例の少ない金製の厭勝銭（えんしょうせん）が人為的に埋められた状態で合計12枚出土しました。巨岩は御楯の「イビ（神が降臨する際の標識）」に相当する可能性が高いことから、今回の発見は首里城内にある御楯の「イビ」から呪術的な遺物が出土した初めての事例であり、琉球王国時代の首里城内における祭祀の様相を窺う上でも非常に重要な資料といえます。



拝所遺構検出状況（北から）



巨岩上面出土の金製厭勝銭

ビット群

今年度調査区の南側は、かつて継世門に続く平場や通路などがあったとされる場所です。しかし発掘調査の結果、戦後の大学建設に伴う工事で地山まで削平されており、一部にはコンクリート建物の基礎も残っていました。一帯の地山面を精査すると、グスク時代と考えられるビットが約30基検出されました。中には柱を建てたような跡がみられるものも複数確認されていることから、この場所が首里城として整備される以前に、何らかの建物があったと想定されます。



ビット群検出状況（南から）

5. まとめ

以上、平成26年度首里城跡発掘調査の中間報告を行いました。今回の調査では、美福門から南へ延びる礎道や、基礎工事の際に構築した土留め石積み、城内十楯の一つ「赤田御門の御楯」とみられる拝所遺構など様々な成果が得られました。これらの遺構はほとんどが15世紀～16世紀に位置づけられるもので、不明な点が多い近世以前の首里城の姿に迫ることのできる貴重な資料といえます。調査区の南側は、戦後の工事で大きく破壊されていましたが、首里城以前とみられるビット群が検出されており、土地利用の変遷を知る上でも興味深い発見がありました。

遺物は中国・タイ・日本・琉球産の陶磁器類をはじめ、金属製品・ガラス製品・骨製品・自然遺物などが大量に出土しました。特筆されるものとしては、拝所遺構の「イビ」から出土した金製厭勝銭が挙げられます。

これらの成果については、今後、分類・集計・図化・写真撮影などの整理作業のほか、保存処理や自然科学分析などを行い、調査報告書としてまとめられることとなります。

・参考資料

首里城跡（継世門北地区及び周辺）関連年表

西暦	元号	事項
1392年	観度43年	放丈の高橋を建造して遊観に備える(首里城創建か)
1422～39年	尚巴志王代	美福門創建と伝わる
1546年	尚清20年	継世門及び門両側の城壁が創建される
1732年	尚敬20年	美福門前の廻道階下東側に佐敷御殿が創建される
1846年	尚育12年	異国人对策のため献会門・久慶門・継世門に三重櫓を設置する
1851年	尚泰4年	異国人对策のため献会門・久慶門・継世門等に三重櫓を、淑順門・美福門等に二重櫓を設置し、城壁に灰粉を塗って修復する
1879年	尚泰32/明治12年	琉球処分 首里城が明け渡され熊本鎮台沖縄分遣隊の駐屯地となる
1908年	明治41年	城内に首里区立女子工芸学校が移転後、管理上の都合により美福門が閉じられる
1909年	明治42年	首里城跡が陸軍省から首里区に払い下げられる
1932～33年	昭和7～8年	管理のため閉じられた美福門が再び開けられる
1944年	昭和19年	首里城跡の地下に第32軍司令部壕が構築される
1945年	昭和20年	沖縄戦により城内の建物・石垣などが破壊される
1950年	昭和25年	首里城跡地に琉球大学が開学する
1955年	昭和30年	首里城跡が琉球政府の史跡に指定される
1964～65年	昭和39～40年	一部に農学ビルが建設される
1972年	昭和47年	沖縄県の日本復帰 首里城跡が国の史跡に指定される
1977年	昭和52年	首里城城郊等の復元整備及び遺構調査が沖縄県教育庁文化課により開始される ※2001(平成13)年度に終了
1986年	昭和61年	首里城跡地約4haを「国営沖縄記念公園首里城地区」として整備することが閣議決定される
1987年	昭和62年	国営沖縄記念公園(首里城地区)整備に伴う発掘調査が沖縄県教育庁文化課により開始される ※現在も継続中
1992年	平成4年	首里城公園が開園する(約1.7ha供用開始)
2000年	平成12年	「琉球王国のグスク及び関連遺産群」の一資産として世界文化遺産に登録される



沖縄戦で崩れた美福門の城壁と階段（1945年6月18日撮影）

※大田昌秀監修 1990『写真集 沖縄戦』那覇出版社より